

# 三陸新報

三陸新報社

## “船長気分”も体験

津谷・松園 幼稚園年長 遠洋マグロ船見学

気仙沼市立津谷幼稚園(齋藤五月園長)と松園幼稚園(菊田斉園長)の年長組の園児たちが7日、気仙沼港に停泊中の遠洋マグロはえ縄船を見学した。子供たちは、船主や漁労長などから船内の設備やはえ縄漁の仕組みなどについて聴き、マグロ漁への興味と関心を高めた。

海洋教育パイオニアスクールプログラムに参加する両園。気仙沼の魚を学校給食に普及

させた会(白井壯太郎代表)の案内で、初めて見学した。

参加したのは、津谷の12人と松園の5人。市内港町の岸壁を訪れ、揺れるタラップを恐る恐る渡って白井代表が社長を務める白福本店所有の第58昭福丸(423ト)の船内へ。白井代表や同船の菅原昌則漁労長(60)らの説明を受けながら、探検した。

白井代表は、操業に使う幹縄の長さが「気

仙沼から仙台までの距離と同じくらい」と説明。漁獲したマグロは「南極の寒さと同じくらい冷える冷凍庫で力チカチに凍らせて、新鮮でおいしい状態のまま日本に運んでくる」などと解説した。

菅原漁労長は、操舵輪(ハンドル)に触れさせたり、双眼鏡をのぞかせるなどして「船長気分」を体験させた。子供たちを喜ばせた。津谷幼稚園の畠山将希ちゃん(5)は「前



マグロの取り方を聴く園児

から見たいと思っていた。おく冷凍庫などが大きた船の中に入れてうれくてすごかった」などしい。マグロを入れてと声を弾ませた。